

図1 睡眠中の枕元における空中Der 1濃度  
夏(1999年7月)と冬(2000年1月)の比較

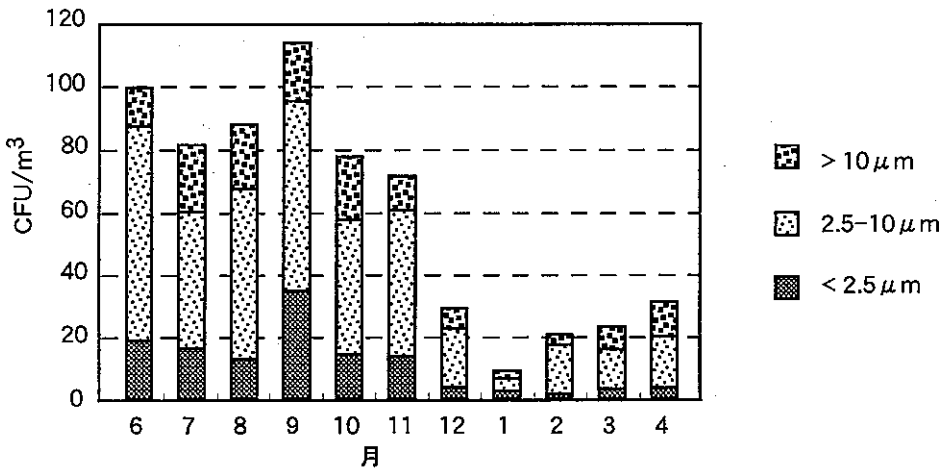


図2 室内空気中の平均真菌数月別推移 (1999年6月-2000年4月)

表1 室内空気中の主要真菌検出頻度\*

Fungi	(大きさ, $\mu\text{m}$ )	$>10\mu\text{m}$	$2.5-10\mu\text{m}$	$<2.5\mu\text{m}$
Alternaria	(30-100)	16	3	0
Cladosporium	(5-8)	28	39	24
Aspergillus	(4-6)	11	29	10
Yeasts	(4-5)	5	13	9
Penicillium	(3-5)	18	45	31
Trichoderma	(2-4)	0	2	5
放線菌	(2-4)	0	2	2

\*: 1999年6月から2000年1月までの間の60日間の測定で検出された回数

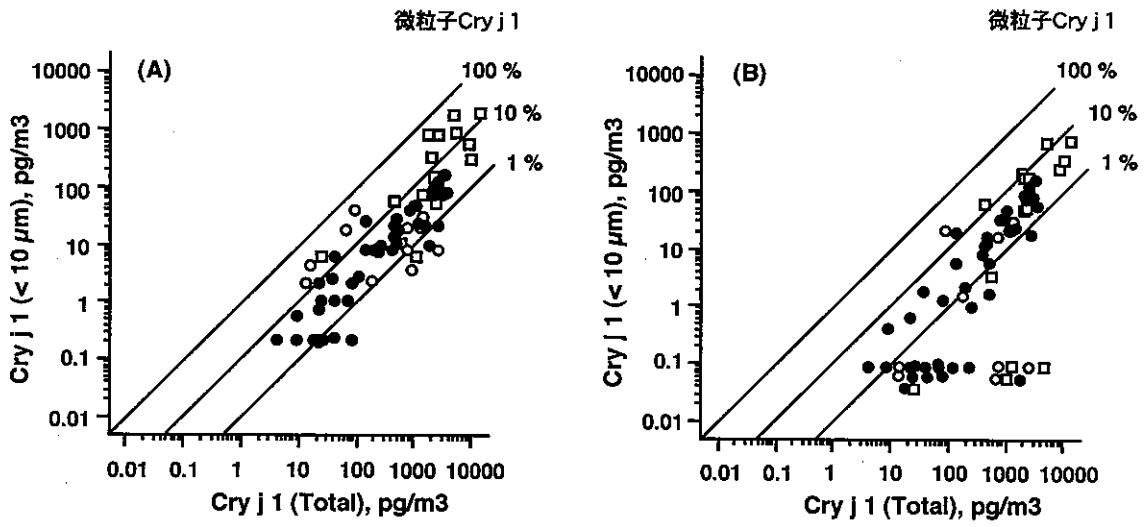


図3 分粒装置付きサンプラーと分粒装置のないサンプラーに捕集されたCry j 1, Cry j 1 (<10 μm)とCry j 1 (Total)の関係 (A) : 実測値, (B) : 分粒装置から微粒子分画へリークした花粉由来のCry j 1を補正した後の関係 (○)は24時間の捕集中に降雨のあった日, (□)は強風の吹いた日

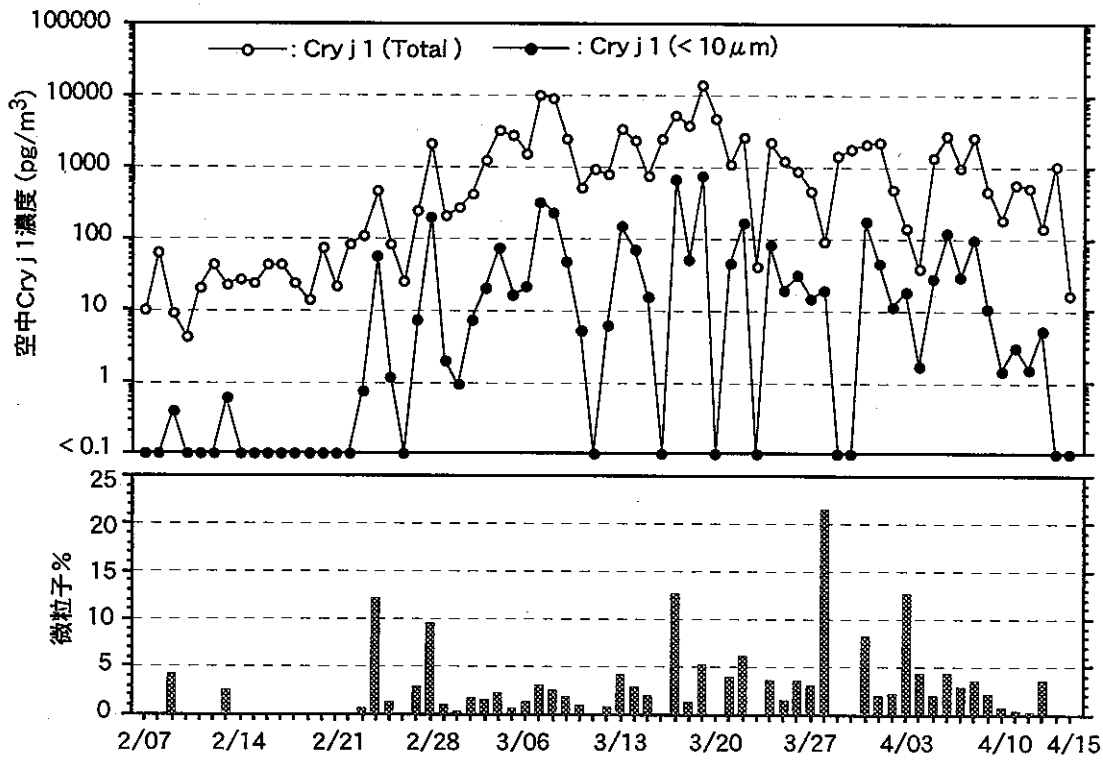


図4 2000年のスギ花粉飛散期における空中Cry j 1濃度と微粒子分画の割合 (○)は分粒装置のないサンプラーに捕集された総Cry j 1濃度 (●)は補正後の10 μm以下の微粒子分画中Cry j 1濃度